

第2章 三豊市の自然的・社会的状況

第1節 自然的状況

三豊市は、香川県の西部に位置し、南部から南東部にかけては讃岐山脈の中蓮寺峰・若狭峰などの山間地があり、北東部は大麻山・弥谷山、西部には七宝山（志保山）などの山々があります。北西部には瀬戸内海に突き出た荘内半島があり、その南側には砂浜の美しい海岸線が続いており、栗島・志々島・薦島などの島しょ部もみられます。

中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、東部から北部に向かって高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園地帯を形成しています。

また、三豊平野にはため池が多数点在していることも地勢の大きな特色となっています。

総面積は222.7平方キロメートルで、県内17市町のうち、高松市次いで2番目の面積規模となっています。

気候は、瀬戸内式気候に属し、降水量は年間1,200ミリメートル前後、平均気温は摂氏16～17度となっており、温暖な気候に恵まれています。



資料：みとよの身の丈「令和5年版」

図2-1-1 三豊市の位置

第2節 社会的状況

1 人口及び世帯数

三豊市の人口は図 2-2-1 にみられるように減少傾向にあり、令和 2 年 10 月 1 日現在の総人口（国勢調査の確定値）は、20 年前の平成 12 年と比較して 15.8%減少（年当たり 0.79%の減少）し 61,857 人となっています。一方で世帯数の増減数は小さく、一世帯当たりの人数は 3.32 人から 2.68 人に減少していて、世帯分離による核家族化がうかがえます。

年齢階級別にみると、平成 2 年以降、15 歳未満の年少人口及び 15 歳以上 65 歳未満の生産年齢人口の割合はともに減少傾向にありますが、65 歳以上の老年人口の割合は増加傾向にあり、少子高齢化が進行しています。



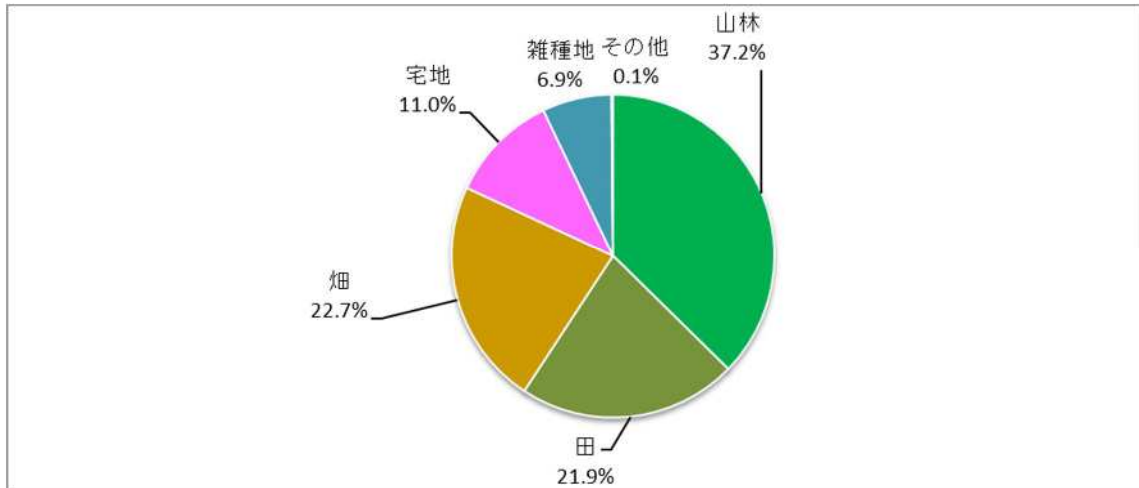
各年 10 月 1 日現在 資料：国勢調査

図 2-2-1 人口・世帯数・年齢階級別構成比率等の推移

2 土地利用状況

令和4年1月1日における三豊市の土地利用状況（民有地）は図2-2-2のとおりです。民有地の総面積（162,362,666㎡）のうち、山林が37.2%（60,626,459㎡）、田が21.9%（35,591,820㎡）、畑が22.7%（36,831,713㎡）、宅地が11.0%（17,793,115㎡）となっています。

なお、雑種地とは、不動産登記簿上の地目の一つで、他の地目に該当しないもの（駐車場や資材置場など）を指します。また、「その他」は、ここでは牧場及び池沼としています。



資料：みとよの身の丈「令和5年版」

図2-2-2 三豊市の土地利用状況（民有地）（令和4年1月1日現在）

三豊市の田及び畑など総経営耕地面積は、農林水産省「2020年農林業センサス」によると、令和2年2月1日現在で2,626haです。また、林野面積は7,829ha（78.29km²）で、市の総面積（222.70km²）の35.2%となっています。

表2-2-2 三豊市の林野面積等（令和2年2月1日現在）

林野面積（ha）		
総数	現況森林面積	森林以外の草生地
7,829	7,808	21

資料：2020年農林業センサス

3 道路・交通条件

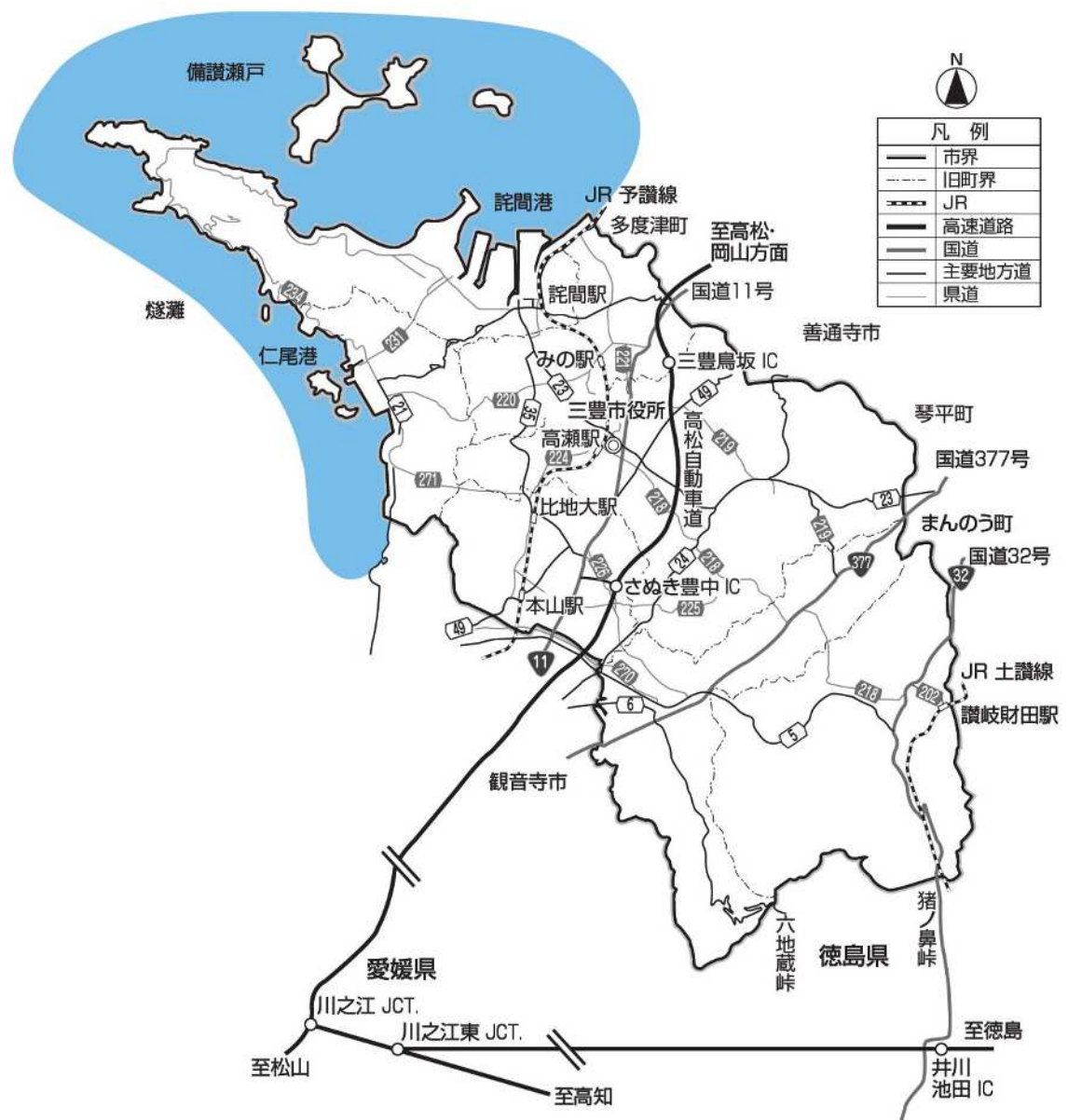
三豊市には、北東から南西方向に高松自動車道、国道11号、377号、JR予讃線が走り、南東部には、南北に国道32号、JR土讃線が走っており、幹線交通軸を形成しています。

特に、高速自動車道については、市内にさぬき豊中インターチェンジと三豊鳥坂ハーフインターチェンジを有しているほか、国道32号を通じて井川池田インターチェンジとも連絡し、

高松、松山、高知、徳島、岡山など各方面への交通の利便性が高くなっています。

また、JR 予讃線には詫間駅、みの駅、高瀬駅、比地大駅、本山駅、JR 土讃線には讃岐財田駅があるほか、土讃線の分岐点である多度津駅、高松空港など交通の結節点にも近く、四国における交通の要衝に近接した恵まれた交通立地条件を有しています。

さらに、海上交通の拠点として、国際貿易港である詫間港と、マリンレジャーの盛んな仁尾港の2つの地方港湾を有しています。



資料：三豊市第2次総合計画

図 2-2-3 主要な道路と交通網